

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育学部教育者養成の理念に基づいたアドミッションポリシーを明示し、受験者に目標と内容の理解を徹底する。	→「募集要項・オープンキャンパス等におけるアドミッションポリシーの明示・説明と教授会構成メンバーへの周知」「オープンキャンパス等を利用して受験生への事前相談の実施」	B	B			
2. 教育者養成を核としたアドミッションポリシーの理解を学部としてより深める。	→「各種の入試関係の委員会の開催状況」「入試制度検討委員会の開催頻度と検討の進捗状況」	B	B			
3. 教育学部の理念に基づき、収容定員を過不足無く確保するよう努力を行う。	→「歩留まり率検討委員会の開催頻度」	A	A			
4. 教育学部の理念と教育者養成のアドミッションポリシーに基づき、学生募集と学生選抜が公正かつ適切に実施されているか検証を行う。	→「入試制度委員会の開催頻度」	C	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
学科別にコース別の目標値に収容定員を近づける。	→歩留り委員会での過去資料の累積と検討					
教育者養成を核としたアドミッションポリシーの理解を学部としてより	→オープンキャンパスでの事前相談の教員配置					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目5.0.1	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
	(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない
	(明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(受け入れ方針) 教育学部教育者養成の理念に基づいたアドミッションポリシーを明示し、受験者に目標と内容の理解を徹底する。 (説明) 募集要項・オープンキャンパス等におけるアドミッションポリシーの明示・説明については達成した。教授会構成員への周知については、オープンキャンパス時の事前相談を、担当部署を持たない教員が担当することによって、教育者養成の理念に基づいたアドミッションポリシーの理解と入試内容の理解を自主的に紹介する方策をとっていた。
小項目5.0.2	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
	(説明) 入試制度検討委員会において検討しているが、特に入学者の変動が大きい臨床教育学科についてAO入試の改善を検討した。スポーツ選抜の学生に対して教育学部のアドミッションポリシーを理解してもらえるよう、教育内容の説明を徹底した。
小項目5.0.3	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
	(説明) 一般入試とAO入試について各委員会を設けた。入試関係の委員会の開催を入試前後に高い頻度で行った。学部創設後2年分の入試データをもとに合格者数について検討した。
小項目5.0.4	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
	(説明) 入試制度検討委員会のメンバーを増員し、開催頻度も増やして、学生募集と学生選抜が公正かつ適切に実施されているか検証した。その結果については、学部長室会にてさらに検討を行った。
その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ) 本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【教育学部】		単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	入学定員	名	/	/	350	350	350	
指標2	志願者総数	人	/	/	3,267	3,457	3,933	
指標3	合格者数	人	/	/	773	927	1,070	
指標4	入学者数	人	/	/	322	381	365	
指標5	志願者倍率	倍	/	/	9.3	9.9	11.2	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍	/	/	/	/	/	入学者数÷入学定員
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	/	/	46.3%	51.7%	49.6%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	/	/	350	700	1,055	
指標9	在籍学生数	人	/	/	322	703	1,065	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	/	/	92.0%	100.4%	100.9%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	人	/	/	(0)	(0)	3	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	/	/	-	-	5	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	/	/	-	-	60.0%	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	人	/	/	0	5	/	

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入

(その他の指標データ)  
 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】  
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合  
 科目等履修者の入学者数  
 聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	オープンキャンパスでは原則として全教職員が参加できる体制を整えた。
小項目5.0.2	A0入試の改善については、1次試験の合格者を1.2倍として、2次試験へつなげた。
☆小項目5.0.3	幼児・初等教育学科幼児教育コースについては第一志望の受験者が多くみられ、歩留りもよく安定してきていると思われるが、幼児・初等教育学科初等教育コースや臨床教育学科については、他学部や他大学の受験結果の影響を受けやすいことがわかってきた。歩留り委員会ではその傾向を見据えて検討したことが、適切な入学者選抜につながった。
小項目5.0.4	入試制度委員会のメンバーを2名から6名に増員し、充実を図った。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》**伸長させるための方策** 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	オープンキャンパスへの協力を早い時期によびかけ、計画を立てる。
小項目5.0.2	臨床教育学科のA0入試に付いては本方策を始めたばかりなので、変わらず選抜を行い、様子を見る。
☆小項目5.0.3	さらなるデータの蓄積から、傾向をよみとる、
小項目5.0.4	入試制度検討委員会より答申を次年度に出せるよう準備を進めている。
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》**改善方策** 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎**自由記述**

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆ その他 (自由記述)	
--------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### <評価専門委員会の評価>

##### 【学外委員】

○学科別に入試方法に応じた入学者数のコントロールのあり方をきめ細かく検討している点が評価されます。今後も、さらに安定した管理がなされるように運用を図っていくことが期待されます。

##### 【学内委員】

○適切な点検評価が行われています。また、全体として順調に志願者が増加していることは評価できます。

○ここでの方針は、「教育学部教育者養成の理念に基づいたアドミッションポリシーを明示し、受験者に目標と内容の理解を徹底する。」と示されているアドミッションポリシーの内容です。その点、追加記述が求められます。

○一般入試入学者の比率が50%を切っていること、編入学定員を充足していないことが問題とされます。

○小項目5.0.1の(方針)には、学生の受け入れ方針そのものを書いてください。

○大学基準協会の留意すべき事項にもあるように、ホームページによる公表を欠かすことが出来ません。すでに掲出されていると思いますが、この点についての説明が必要でしょう。

○小項目5.0.2については、要素や大学基準協会の留意すべき事項の観点からの説明が求められます。

○小項目5.0.3については、要素や大学基準協会の留意すべき事項の観点からの説明、評価指標データを使った説明が求められます。

○認証評価においては、検討した根拠を示すために会議の名称、開催日時の明記ならびに記録の整備が必要です。準備をお願いします。

○昨年度、改善方策で示された事柄について記述がありません。実施できなくてもいいので、その記述が必要です。これによりPDCAサイクルが機能しているか確認できます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・小項目5.0.1の現状説明における(方針)は、方針そのものを記載してください。

・進捗評価は、目標達成を基準に行われます。現在の時点で、既にAである目標については、より進んだ目標を設定することが期待されます。

・「募集要項・オープンキャンパス等におけるアドミッションポリシーの明示・説明と教授会構成メンバーへの周知」とありますが、アドミッションポリシーはHPへの記載が必要ではないでしょうか。また、編入学定員を設けておられますので、その事の特記することが期待されます。

##### 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

###### ○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

###### ○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

###### ○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である(※)」

###### ※【定員超過の場合の提言指針】

《実験・実習を伴う分野(心理学、社会福祉学に関する分野を含む)》

1.20以上：努力課題

1.25以上：改善勧告

《医学・歯学》

1.00以上：努力課題

1.05以上：改善勧告

《上記以外の分野》

1.25以上：努力課題

1.30以上：改善勧告

《未完成学部》

いわゆる「届出設置」の場合は、前身となる学科等の状況を勘案するなど、条件に応じて判断する。

###### ※【定員未充足の場合の提言指針】

《全て》

0.9未満：努力課題

0.8未満：改善勧告

《未完成学部》

定員超過の場合の提言指針に準じる。

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である(※)」

###### ※【定員超過の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針(上記)に準ずる

(なお、定員の超過が留年者数の増加によるものである場合は、その事情を考慮する)

###### ※【定員未充足の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針(上記)に準ずる。

## ○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

1.30以上：努力課題

《未完成学部》

1.30以上：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

0.7未満：努力課題

《未完成学部》

0.7未満：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

## ○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

## ○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと明らかであるかに留意する。）

・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性

・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》5.0.1の（受け入れ方針）部分に下記のように追記。

具体的なアドミッションポリシーは次のとおり。

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ学生を受け入れることを基本方針としています。

より具体的には、教育学部は、教育という営みに幅広い関心を持ち、かつ学校、幼稚園、保育所など教育・保育現場で将来活躍したいという強い意欲を持つ学生、また社会における教育の諸活動にかかわり、問題解決ができる実践家を目指す学生を受け入れます。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育士は子どものかかわりや保護者のかかわりも密です。それら他者のかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる文章力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

なお、本学部においては、いわゆる文系の領域だけでなく、理系の領域にも強い関心を持つ学生も受け入れます。

★ 一般入学試験、センター利用入学試験においては、以上の点をふまえ、試験科目と配点を決め、教育学部において学ぶための学力判定を実施します。

《現状の説明》5.0.1の（説明）部分に下記のように追記。

また、アドミッションポリシーは、大学のホームページにも掲出した。

《現状の説明》5.0.2に下記のように追記。

また、学生募集および入学者選抜については、それぞれの入試委員会において、適切かつ公正に行っている。

《現状の説明》5.0.3に下記のように追記。

収容定員に対する在籍者数は適正な数字である。編入学については2010年度に編入学試験を実施し、聖和短期大学からの推薦学生3名を含め5名の合格者を出したが、他校からの合格者2名が入学を辞退したため、収容定員を確保することができなかった。